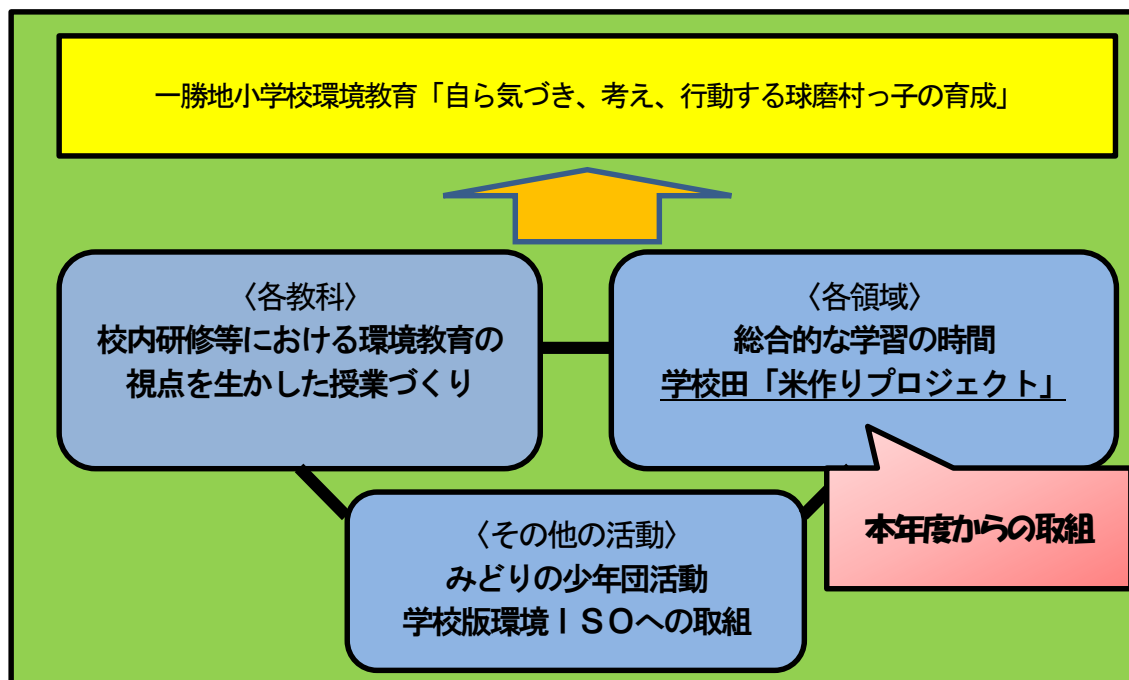


# 平成27年度ニッセイ緑の財団環境推進事業取組報告書

球磨村立一勝地小学校

## 1 一勝地小学校環境教育「米作りプロジェクトを中心とした環境学習」取組構想図



## 2 取組の仮説

一勝地小学校は、本年度から学校周辺の棚田を利用した米作り体験（米作りプロジェクト）を始動させた。全校児童による米作り体験（田植え・稲刈り）のみならず、6年生を中心とした総合的な学習の時間での調べ学習や成長観察を行うことで、米作りと学校周辺の環境が深く関わっていることに児童が自ら気づき、環境を保全しようとする態度を育てることができると考えている。

## 3 取組の実際

### (1) 田植え

田植えは、棚田保存会長をはじめ地域の方々の協力の下、全校児童で取り組むことができた。苗の手植えと機械植えの両方を体験させていただいた。田植え後の児童の感想の中には、「今日の田植えの体験を通して、昔の人の苦

労が分かった。」とあった。貴重な体験となった。

### (2) 観察・かかし作り

6年生の総合的な学習の時間では、毎月稲の成長観察と9月にはかかしづくりを行った。稲の成長観察では、稲の背丈の測定や田んぼの中に住んでいる生き物を記録した。かかし作りは、実った穂を守るために児童が自らデザインし製作した。毎月の観察で稲の成長を目で見て感じる事ができた。

### (3) 稲刈り

稲刈りは、田植えの時と同様、地域の方々の協力の下、全校児童で取り組むことができた。カマを使い、手作業で稲を刈り取り、竿がけも行った。児童は、成長した稲を収穫する喜びを感じることができた。

### (4) 水質調査

児童が調べ学習において、おいしいお米ができる条件を探したところ、①水②土③温度差が大事だということが分かった。そこで、棚田に使われている水路の水質を調査したところ、大変きれいな数値が出た。また、田んぼの中の水も調べると水路よりもきれいな数値が出た。この結果から、田んぼの



中には、さらに水質をきれいにする生き物等が存在するのではないかという疑問も生まれ、さらに追究していくことになった。

## (5) その他の活動

### ① 樹木学習会

身近な環境に目を向け、自然を大切にしようとする態度を育てるため、学校の森で樹木学習会を実施した。その際、日本植林協会青年部の方々に協力していただき、身近にある樹木の種類を学び、コケを使った観葉植物作りなどを行った。



自然の中での体験活動で、児童は自然を身近なものと感じ、環境問題への関心をさらに深めることができた。

### ② 花いっぱい運動

本校では、全校児童で花いっぱい運動に取り組んでいる。6月に種から育てた花の苗を自分のプランターに移植し、校舎の玄関周辺に飾って育てた。花はマリーゴールド、サルビア、ペチュニアである。水やりや草取り、花詰み等の世話を続け、自分の花が元気に成長する様子を喜んでいる姿がしばしば見られた。秋からは、パンジー、ビオラ、葉ボタン等を育てている。



### ③ 学校版環境 I S O の取組

項目	5月	6月	7月	8・9月	10月
① 必要のないときに電気を消すことができたか。	69.0	69.0	87.1	87.3	86.6
② バケツでぞうきんを洗うことができたか。	84.5	84.5	84.3	88.7	92.5
③ 歯磨きの時にコップを使うことができたか。	98.6	98.6	100.0	97.2	100.0
④ 給食を残さずに食べることができたか。	81.7	81.7	98.6	95.8	92.5
⑤ ものを大切に使ったり分別したりできたか。	76.1	76.1	78.6	56.3	79.1
⑥ 花の世話を忘れずにしたか。	85.9	85.9	91.4	66.2	85.1

学校版環境 I S O 意識調査 (平成 27 年 5 月～ 10 月学校全体の達成率)

本校では、環境 I S O の取組も行っており、日頃から環境を意識した生活を送っている。上の表から、児童の「節電」や「節水」への意識がとても高いことがわかった。給食の残菜ゼロの目標も概ね達成することができた。しかし、「ものを大切に使ったり、分別したりすること」や「花の世話を忘れずにする」ことにおいては、学年によって意識を高める必要がある。この課題は、前年度から継続した課題であり、今後も全ての教育活動において意識していくべき重要課題である。

## 4 見直し (成果 : ○ と課題 : ▲)

- 環境教育の一環として米作りに取り組むことで、児童が自ら課題を発見し探求的に学ぶことができ、地域の自然や人々とのつながりに気づくことができた。
- 米作り体験を行うことで、稲が成長する喜びを感じることや稲作りに対して愛情を込めることができ、自然の恵みのすばらしさを改めて感じる事ができた。
- ▲ 田んぼの水の管理については、調べ学習でその重要性に気付いていたものの、実際には地域の方に任せてしまっていた。今後は、水の管理の仕方を地域の方々に直接学ぶ活動を取り入れたい。
- ▲ 学校全体の環境 I S O を振り返ると、児童一人ひとりの環境に対する意識や学級での取組に対する意識の差が大きい。特に「ものを大切にすること」と「花の世話をすること」に関しては、差が大きかった。一人ひとりの取組の様子を的確に把握しながら、児童に活動の意義や目的をしっかりと理解させ、学校全体として学校版環境 I S O を意識した学校生活や家庭生活も送ることができるよう、取組の工夫・改善を行っていきたい。